

さっぽろ雪まつり - 国際雪像コンクール

さっぽろ雪まつりの目玉のひとつが、「国際雪像コンクール」です。毎年、海外からのチームが、最も印象に残る雪像づくりを競い合います。国際コンクールは、1974年に6カ国のチームの参加で始まりましたが、国際社会との友好的な関係を育んでいこうとする札幌の姿勢を示しています。これがまつりへの大きなインパクトとなり、文化交流や創造性への道を開いてきました。これまで、37の国や地域からのチームがコンクールに参加してきました。

これら海外の参加者たちが表現しようと選ぶ題材は、地元の参加者たちのものとは全く違うものになったりします。ニュージーランドのチームが巨大なラグビーボールを制作したり、ポーランドのチームが若い「母なる自然」を表現したりしたこともありました。雪の降らない暑い国のチームも果敢に参加します。例えば、タイのチームは何度もコンクールに参加しており、ある年には元気な像の群れを制作し、別の年にはバンコクの大宮殿の堂々とした正面の姿を造り上げました。マレーシアも度々参加しており、ある年の出品作は、4匹のテングザルでした。

3人組の各チームは、計画に長い時間をかけながらも、雪像づくりにはわずか5日間しか与えられないので、朝から晩まで作業します。来場者は、チームの作品づくりを見学したり、チームの人たちと自由に話をしたりすることができます。

国際コンクールの雪像は、大通公園の11丁目地区で見ることができます。俯瞰的な景観を眺めるのであれば、さっぽろテレビ塔からコンクールや大通公園のすべての雪像や氷像を見ることができます。天気が良い日には大倉山のオリンピックスキージャンプ台まで見渡せます。